ISSN 0919-4657

KONC

関西自然保護機構会報

Bulletin of Kansai Organization for Nature Conservation

20巻2号（通算36号）



講演会●環境ホルモン問題の今

1998年12月
関西自然保護機構

表 紙 の 言 葉

「台風7号近畿襲来」

写真　荒元　忠彦
文　　山倉　拓夫

1998年9月22日午後1時過ぎ，台風7号は和歌山県御坊市付近に上陸し，琵琶湖に向かって近畿を駆け抜けた。進路の西側にあたる和歌山北部，大阪北部，奈良盆地（奈良市最大瞬間風速37.6 m）では吹き返しの西風が激しく，一般家屋は勿論，国宝室生寺五重塔をはじめ古都の仏教建築物に甚大な被害をもたらした。被害は人工建造物だけに留まらず，田畑や森にも及んだ。表紙を飾る春日山付近のスギ林の被害写真は，朝日新聞大阪本社写真部荒元忠彦記者が1998年10月2日午前11時に撮影されたものを，ご無理をお願いして拝借したものである。被害の爪痕が生々しい。財の喪失を乗り越え，荒れた林地の修復に立ち向かわれる林家のご苦労は並大抵ではない。世界遺産に指定された春日山の森でもシイやカシの大木が倒壊し，大きな被害が出た（写真参照）。このように大きな被害をもたらした台風は近畿では1979年の台風20号（奈良市最大瞬間風速47.1 m）以来である。森林の発達サイクルは，森林の自然撹乱を駆動力とする。このサイクル研究途上で夭折した畏友・仲和夫博士は，前の台風20号が春日山の森に与えた小規模な被害にヒントを得て，森林の維持機構に果たす台風の重要な役割を初めて理論化した。台風がもたらす悲惨な被害を別として，今度の台風は仲博士が待ち望んでいた台風だったかも知れない。



1998年9月28日春日山照葉樹林にて神崎護氏撮影